

衆議院議員 民主党「次の内閣」前財務大臣

もと ひさ

池田元久

民主党神奈川県第6区総支部・池田元久横浜事務所
〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰2-30 TEL.045-371-1000 FAX.045-374-0100



衆議院議員 **池田元久**
の活動報告

2008



保土ヶ谷駅西口でお年寄りの話をきく池田元久衆議院議員

お年寄りいじめの高齢者医療

民主党、廃止へ強い決意

後期高齢者医療制度が4月から始まった。この制度は、75歳以上の高齢者を対象に、公費5割、現役世代の保険料4割、高齢者の保険料1割の負担で、その医療費をまかなうというもの。これは、高齢者自身に「応分の」医療費の

負担を求めるとともに、75歳以上の高齢者を他の世代から切り離してその医療費の巨額ぶりを明らかにし、医療費を抑制してゆくことが狙いだ。しかし、この制度では、高齢者一人ひとりが保険料を負担し、特に会社員の世帯主に

扶養されている高齢者は新たに保険料を負担することになった。また、厚生労働省は当初、「低所得者ほど負担が軽くなる」と説明していたが、その後の調査で逆に低所得者ほど負担が重くなることが明らか

になった。さらに、終末期医療で医師が治療方針を文書で説明すれば報酬が出ることになり、「延命治療を抑制するものだ」と批判されている。また、保険料は原則として2ヶ月に一度支払われる年金

から天引きされることになり、老後の生活費から否応なく引かれることに高齢者の反発は強まっている。

後期高齢者医療制度は、おとしの国会で自民、公明両党が民主党などの反対を押し切り強行採決で成立させたものだが、ことし4月以降世論の反発が強まると制度の手直しに着手した。しかし、制度の骨格は変えていない。

そもそも大事にすべき高齢者を切り離して若い世代よりも医療の上で厳しい条件の下に置くこと自体、人間の尊厳を顧みない不当なものだ。

池田元久衆議院議員は、6月10日横浜駅西口で行われた民主党の演説会で、「高齢者を年齢で差別し、所得の低い人ほど医療を受けにくくするお年寄りいじめの法律だ。国民には冷たい自民党と公明党の政治の本質が現れている」と厳しく批判した。

民主党は、5月28日他の野党三党とともに後期高齢者医療廃止法案を提出。6月6日参議院本会議で野党の賛成多数で可決した。しかし、自民、公明両党は、批判を恐れて廃止法案を衆議院で否決できず継続審議にした。

民主党では、次の総選挙で後期高齢者医療制度の廃止を公約に掲げて闘う方針だ。そして、現行の各保険制度を一元化して、公平、公正な医療保険を実現する考えだ。

超低金利で家計から

170兆円が失われた

池田元久衆議院議員は、3月25日開かれた衆議院財務金融委員会での超低金利の家計への影響について次のように述べた。

「我国の預貯金の金利は、95年に公定歩合が0・5%に引き下げられたことを契機に超低金利時代に入り、家計の利子の受取額は年々減り続けた。しかし、利息が高かった93年の年間利子受取額がその後も続いたと仮定した場合06年までの累計額は220兆9千億

円になる。つまりこの間これだけの利子収入が得られなかったことになる」

一方、池田議員は、家計の住宅ローンなど借入金の利子の支払いについて、「同じように93年の借入金の利子の支払いがその後も続いたと仮定すると、累計53兆9千億円利子を余分に支払わなければならなかった」と指摘した。

その結果、池田議員は、家計での利子収入と支払いを合



質問する池田衆議院議員

算するとさしひき167兆円が家計から失われたことを明らかにし、就任後初めて委員会に出席した白川日銀総裁も

これを認めた。

池田議員は、「超低金利政策で家計には利子所得の減少で犠牲を強いながら、不良債権を積み重ねてきた銀行と重い債務を抱えた従来型の古い産業を助けた」と厳しく批判した。

宙に浮いた年金の特定 公約違反で責任逃れ

自民・公明両党

政府と自民、公明両党は、

昨年の参院選の前に、持ち主の分からないいわゆる「宙に浮いた年金記録」約5千万件については、「今年3月末までにコンピュータ上のすべての受給者、加入者の記録と名寄せ（照合）を行い、政府・与党の責任で最後の一人までチェックして正しい年金を支払う」と公約した。

そして、ことし3月までに6万件を残して5095万件の名寄せを終了した。しかし、政府の発表によると、持ち主がほぼ特定できたのは1172万件にとどまる一方、4割にあたる2025万件は持ち主を特定することができなかった。

自民・公明両党は「公約違反ではない」と強弁しているが、「3月末までに最後の一人までチェックして…」と云っている以上、国民をダマした上に責任逃れをしているとしか言いようがない。

民主党は、「宙に浮いた年金記録」については予算と人員を投じて、8億5千万件ののぼる手書台帳とコンピュータの記録をすべて照合して年金の持ち主を確定させるよう求めている。

ポスター掲示のお願い

「ご自宅やお店、ご近所に貼ることを承諾して頂ける方、ご連絡を頂ければ幸いです。」



道路特定財源を論じる池田衆議院議員
= 07年12月20日 BS日テレ「闘論」に出演



NHK問題を解説する池田衆議院議員
= 08年2月5日 BS11「インサイドアウト」に出演



07年9月10日 衆議院懲罰委員長に就任
10月23日 委員会では就任のあいさつする池田衆議院議員



命が変えたい。 IKEDA MOTOHISA PROFILE

神奈川県生まれ。県立湘南高校を経て、早稲田大学政治経済学部を卒業。NHKに入り、報道局政治部記者。官邸、衆議院各党、各省を担当し数多くのスクープを重ね活躍。90年旧神奈川4区から衆議院議員に初当選。空域封鎖下のイラクを訪問し人質の解放を交渉。水源地の道志村ゴルフ場計画を断念に追い込む。

96年の総選挙で神奈川6区(保土ヶ谷区、旭区)から当選。現在衆議院議員5期目。外務委員長、予算委党筆頭理事など6委員会の理事、民主党の国際局長、国会対策委総括筆頭委員長、「次の内閣」財務大臣などを歴任。神奈川大学経営学部講師も務める。

この間、日本発金融恐慌を防ぐ金融再生4法を立案、成立を果たす。また、日本が独自に行える経済制裁の創設を提唱し7年越しに実現。さらに年金保険料6・3兆円が給付以外に使われたことなどを明らかにした。

現在、衆議院懲罰委員長、財務金融委員、党副代表。

◆好きな花：バラと蘭。
◆好きな色：鮮やかなブルー。 碧い海を連想させるから